

AL型授業への取組について

～ 静岡県内の市立高等学校5校の取組
(静岡市立2校の事例を中心に)～

報告者

静岡市立高等学校 櫻井宏明

静岡市立清水桜が丘高等学校 渡邊紀之

<発表内容>

1 静岡市立高校の事例

2 静岡市立清水桜が丘高校
の事例

1 静岡市立高校の事例(経緯中心に)

(1) 学校の状況(取組前を中心に)

- ・人口70万の政令市静岡市に位置する「進学校」の一つ(普通科・科学探究科(理数科))
・・・教師が「**大学受験がゴール**」と捉えやすい
- ・平成23年度から科学探究科を設置し、平成25年度から国のスーパーサイエンスハイスクール(**SSH**)に指定
・・・探究活動、表現活動がはじまる

- 市立高校は**人事異動が停滞しがち**であるとともに、生徒に「問題」がないため、**教師の「個業的」傾向**が強く、学校全体のまとまりに欠く傾向。
- **従来型の一斉教授形式の知識伝達型授業**が一般的。
 - AL型授業からかなり遠い学校状況

(2) AL型授業への経緯

- 全国的なAL型授業の「波」
- 人事異動で教員の入れ替え、若返りが進む
- 不登校生徒や特別な支援を要する生徒への対応
(自己肯定感・自己有用感に乏しい面も)
→ 職員の自発的な研修が生まれる
(研修の雰囲気生まれる)

- SSH活動の影響

SSHプログラム自体がAL型授業

科学探究科生徒の変容（自己の考えを堂々と述べる）

科学探究科は育てたい生徒像が明確

- SSH第一期が、平成29年度に指定終了

次期申請のためには、中間評価で指摘され

た「普通科への探究活動の拡大」が課題

これらのことから、学校全体として必要となった
のが……

①生徒に**育成すべき資質・能力**の明確化・共有化

②それを育成するための**教育方法の転換**

であった。

(3) 育てたい資質・能力について

- ・平成28年度、全教員によるワークショップスタイルでの参加型研修を繰り返し、職員のボトムアップで、**育てたい3つの資質・能力を明確化、共有化**

- ・自己有用感
- ・視野の広さ
- ・主体性

→これらの育成のための**AL型授業の必要性が認識**

(参考)平成29年度静岡市立高等学校学校経営構想における「重点目標」

生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって、未来起点の思考と日常の凡事徹底により、高校生活(学習、部活動、学校行事等)を通して、3つの資質・能力(自己有用感、視野の広さ、主体性)を、生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会、地域等が連携し、皆で支援する。

(3) 取組内容

- ・AL型授業に積極的に取り組む教員を各教科に置き、5名程度の教員による「**ユニット**」(議論・検討する集団)を結成し、中心的役割を担う(沼津市立沼津高校からの提案。県内全市立高校で結成)

公開授業を実施し、学校を超えた研修を実施

→ 市立高校共通の課題の解消にも貢献

- AL型授業**先進校**への視察
- 公開授業日に溝上慎一教授をお招きして、教員研修としてAL型授業についての**講演及び授業検討会**を実施 → **職員の納得感**
- 平成29年度、管理職による参観授業では、**全職員の指導案**に、3つの資質・能力の中からねらいとするものを指定し、ALを取り入れることにした

(4) AL型授業の例(「現代文B」授業略案)

(5) 成果

- ・3つの資質・能力を意識したAL型授業の広がり
 - ・・・学校の目指す方向性の明確化、共有化
- ・普通科における探究活動を、総合的な学習の時間の見直しにより実施することになる
 - ・・・SSH活動が学校全体の取組へ
 - ・・・LHRも含めた全面的な見直しへ(カリマネ)

(6) 課題

- ・「深い学び」になっているか？
- ・AL型授業への戸惑いが残存
(大学受験のためには授業進度が気になる)
 - ・・・知識伝達型から抜け切れない授業も
- ・教員の個業的傾向は残存
 - ・・・分掌・学年・教科での組織的取組に乏しい

- AL型授業が、まだまだ評価の改善へと連動していない

→ 静岡市立高校の取組は、まだまだ不十分ですが、確実に自発的なAL型授業は広がっています。
職員全員によるカリキュラムマネジメントの視点を大切に、本校教育のさらなる改善を図っていきます。



2 清水桜が丘高校の取組

【学校の特色を生かす】

- ・ 全教室に電子黒板機能付きプロジェクタ
- ・ 全教員にタブレット型P C
- ・ iPad80台＋windowsタブレット40台保有

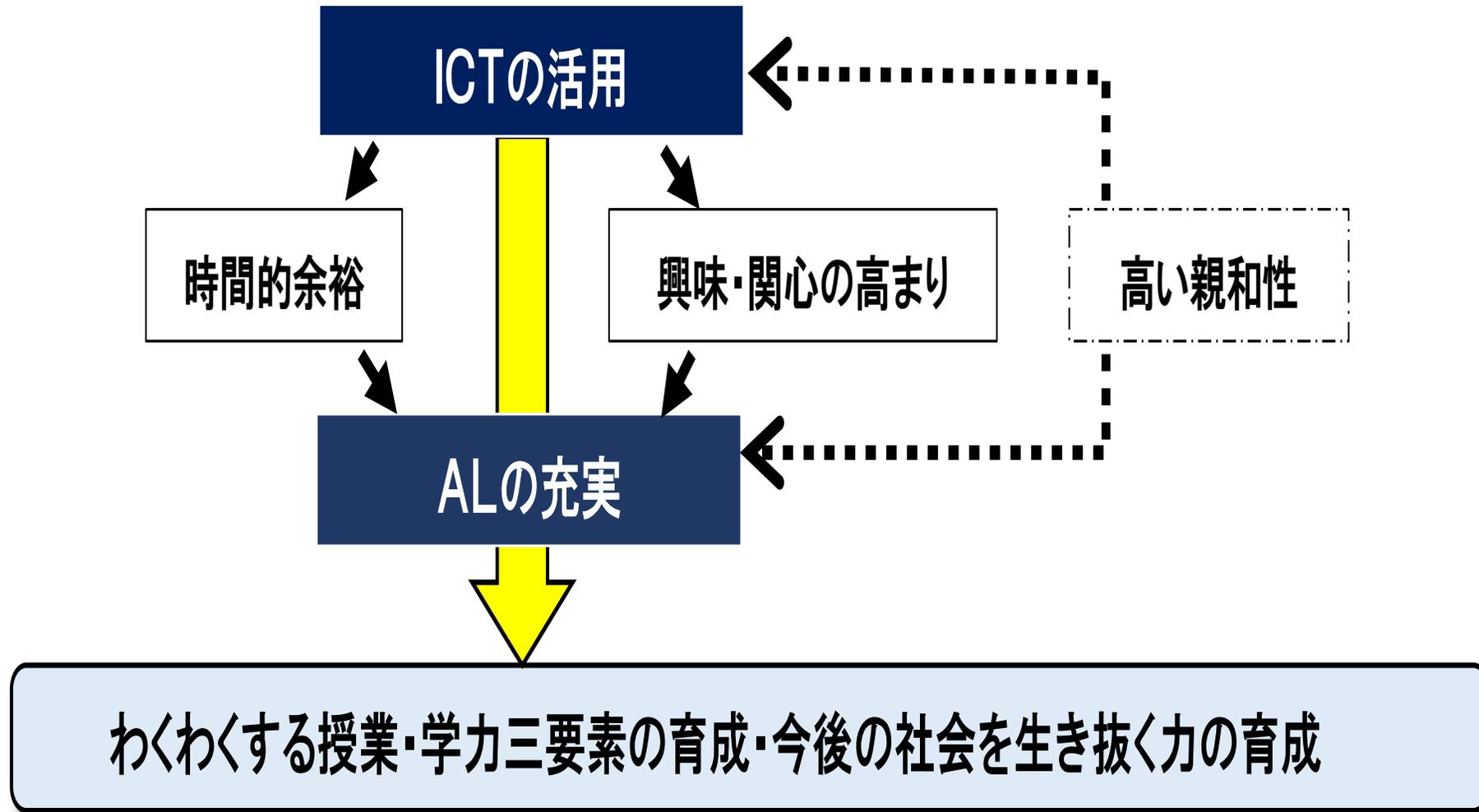


I C T を活用した A L 授業の研究

- ・ プロジェクターで資料提示
- ・ スグキク等双方向型ソフトの活用



清水桜が丘型AL研究



指導案(デザインシート)・振り返り

□ 別紙

成果等

- **教員の多くが毎時の授業でICT活用**
- **グループワーク等、多様な学習形態の増加。**
- **授業アンケートの結果**

授業中に考えや成果を発表・表現する機会がある 普通82% 商業80%

課題

- **成果の検証 評価の工夫**
- ALによって授業進度が遅くなるという根強い意見
- お手軽グループ発表会にしない工夫
「深い学び」への深化
- ICT機器等の整備・維持費用等